

企業の取り組みについて

積水ハウスの生物多様性保全戦略 ～ 生産と消費をつなぐために ～



環境推進部 佐々木



佐々木 正顕（ささき まさあき）

所属：積水ハウス 環境推進部 部長（樹木医）

- 「5本の樹」計画…在来種中心の庭づくり・緑化事業
- 「SDGs・ESG対応」…機関投資家対策の戦略策定や対応
- 「木材調達ガイドライン」…持続可能な木材 フェアウッドの導入 etc.

社外委員や社外活動：（最近の実績のみ）

- 日本建築センター 建築関連産業とSDGs委員会
- 農林水産省 生物多様性の経済連携スキーム研究会
- 大阪市 環境審議会 生物多様性部会
- 大阪府 みどり公社 評議員
- 滋賀県 生物多様性保全活動促進事業検討会
- クリーンウッド法「登録」促進 家具業界向け家具産地セミナー

etc.

「生産」 → **メーカー** → 「消費」

1. 生態系**保全**のための**価格プレミアム**を商品に転嫁できるか？
2. コストオンするための、企業の**工夫の余地**はあるのか？
3. 金額面で**100%**転嫁できないとしたら、その不足を**何で補完**するか？

「生態系保全」と「自然資本」

「自然を使い続けること（循環）」を
どうやって経営に組み込むか

自然は
タダじゃない



ヒト…人件費

モノ…製造コスト

カネ…必要な資金

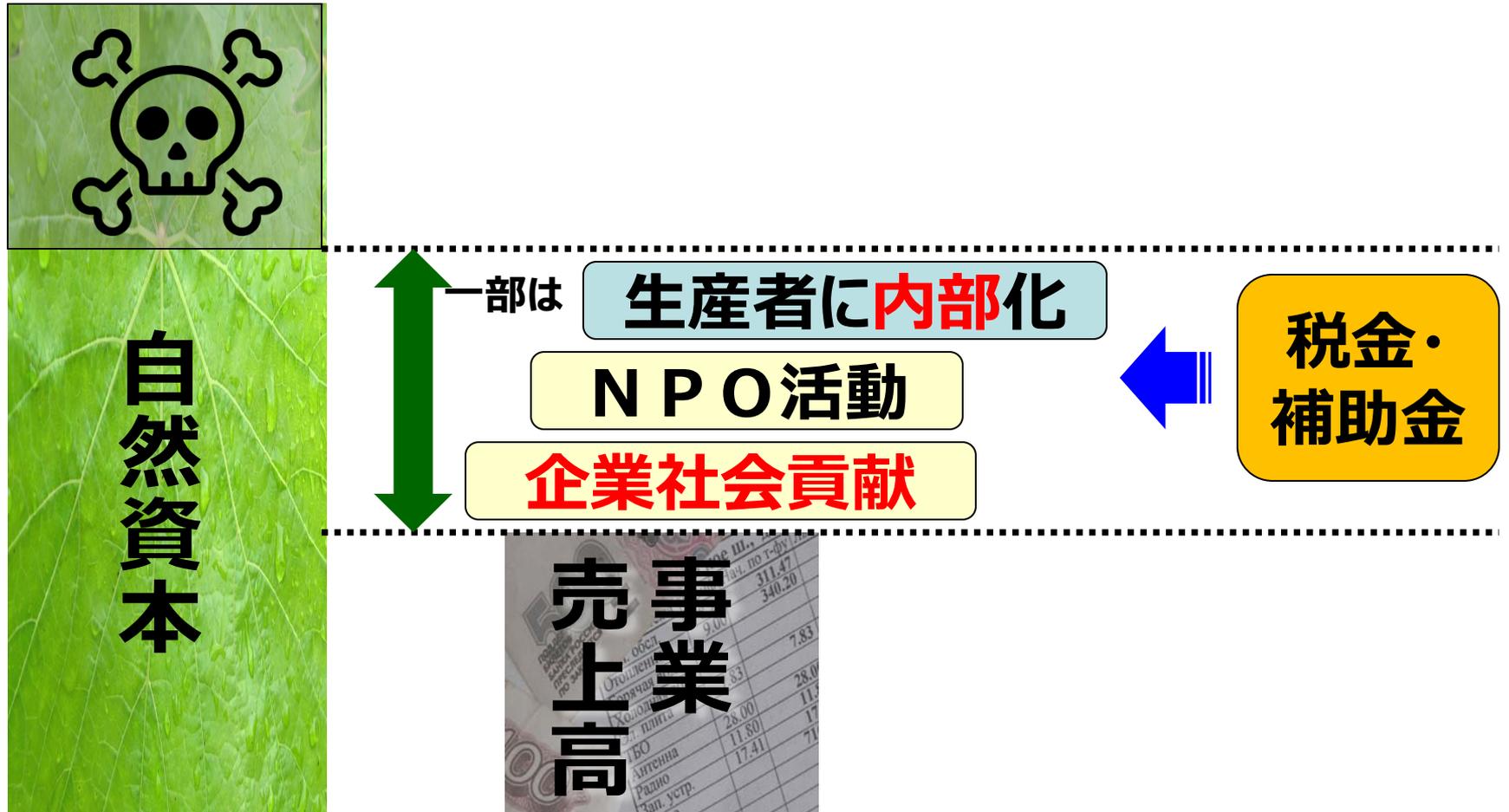
必要経費

事業売上高

利益

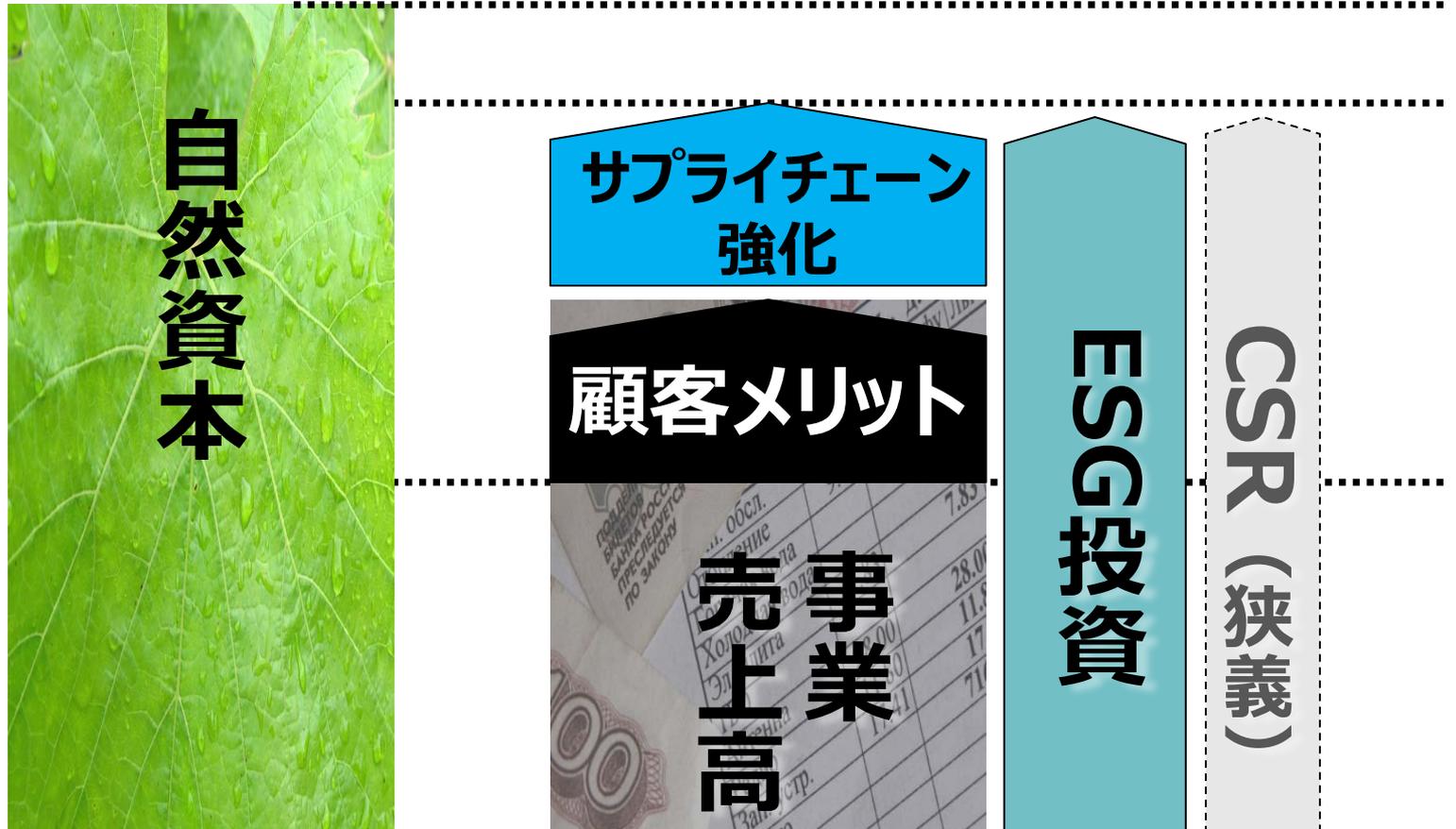
「自然資本」とは

「自然を使い続けること」が経済に組み込まれて
いなかったことから歪が生まれていた



結論

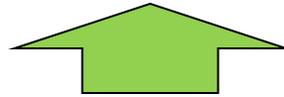
- ①生態系保全を「顧客メリット」に翻訳してマーケティングし、
- ②保全プロセスをサプライチェーンとの関係強化と位置付け、
- ③ESG投資を持続可能な事業基盤補完の視点で拡大



KEY MESSAGES

B3

多くの場合、消費者と生産者の間に距離があるため、消費者の選択が世界の土地劣化に及ぼす影響の全貌が常に見えるとは限らない



BACKGROUND TO THE KEY MESSAGES

19

C-5

消費者と消費者が依存する食糧とその他商品作物を生み出す生態系との乖離が拡大し空間的断絶が深まると、消費に対する選択が土地劣化に与える影響に対する消費者の意識や理解の欠如が進む

1.生態系保全の意義を 「顧客メリット」に翻訳 してお伝えしていく … マーケットを作る

造園緑化事業の軸 「5本の樹」

3本は鳥のために、

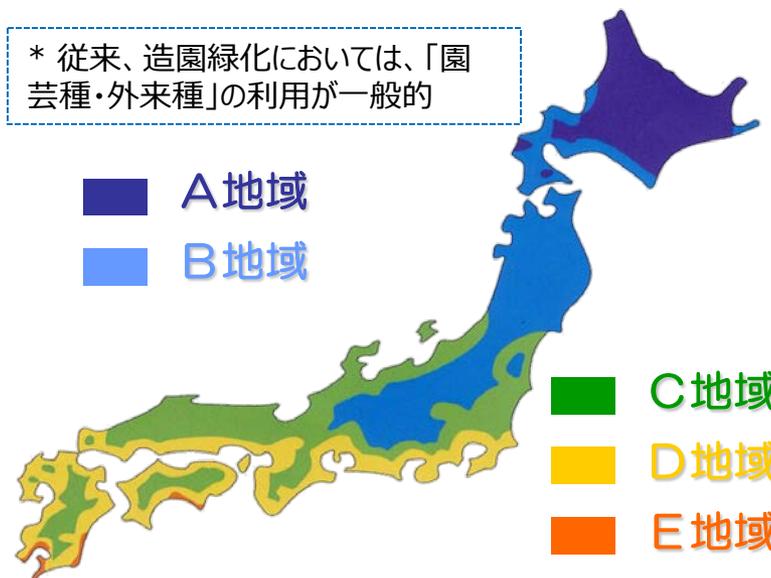


2本は蝶のために、



地域の「在来種*」を提案

* 従来、造園緑化においては、「園芸種・外来種」の利用が一般的



生態系のネットワーク…「里山」をお手本に



豊かな「いのち」のつながり



里山 ; 人の手が加わることで、天然の自然よりも、
多様な生きものの住処となるという「システム」



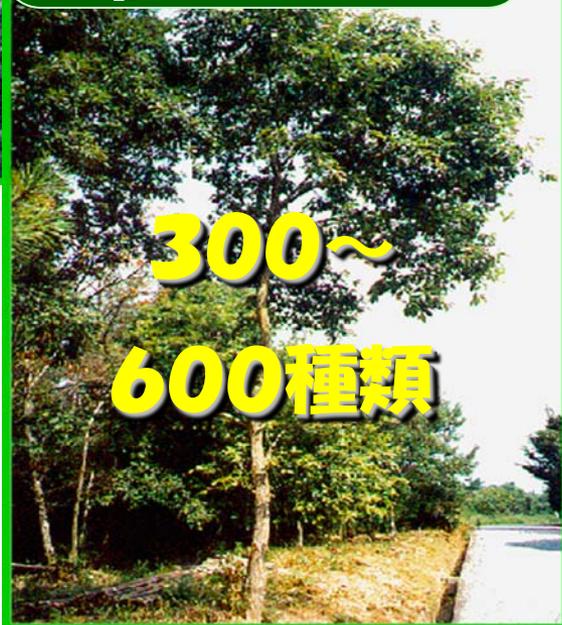
生態系…管理からのアプローチ

外：ヒマラヤシーダー



20種類

在：クヌギ



300~
600種類



外：ハナミズキ



うどん粉病



在：ヤマボウシ

生態系…資産価値からのアプローチ



Q : 候補地BがAより高い場合、いくらまでなら差額を払いますか？



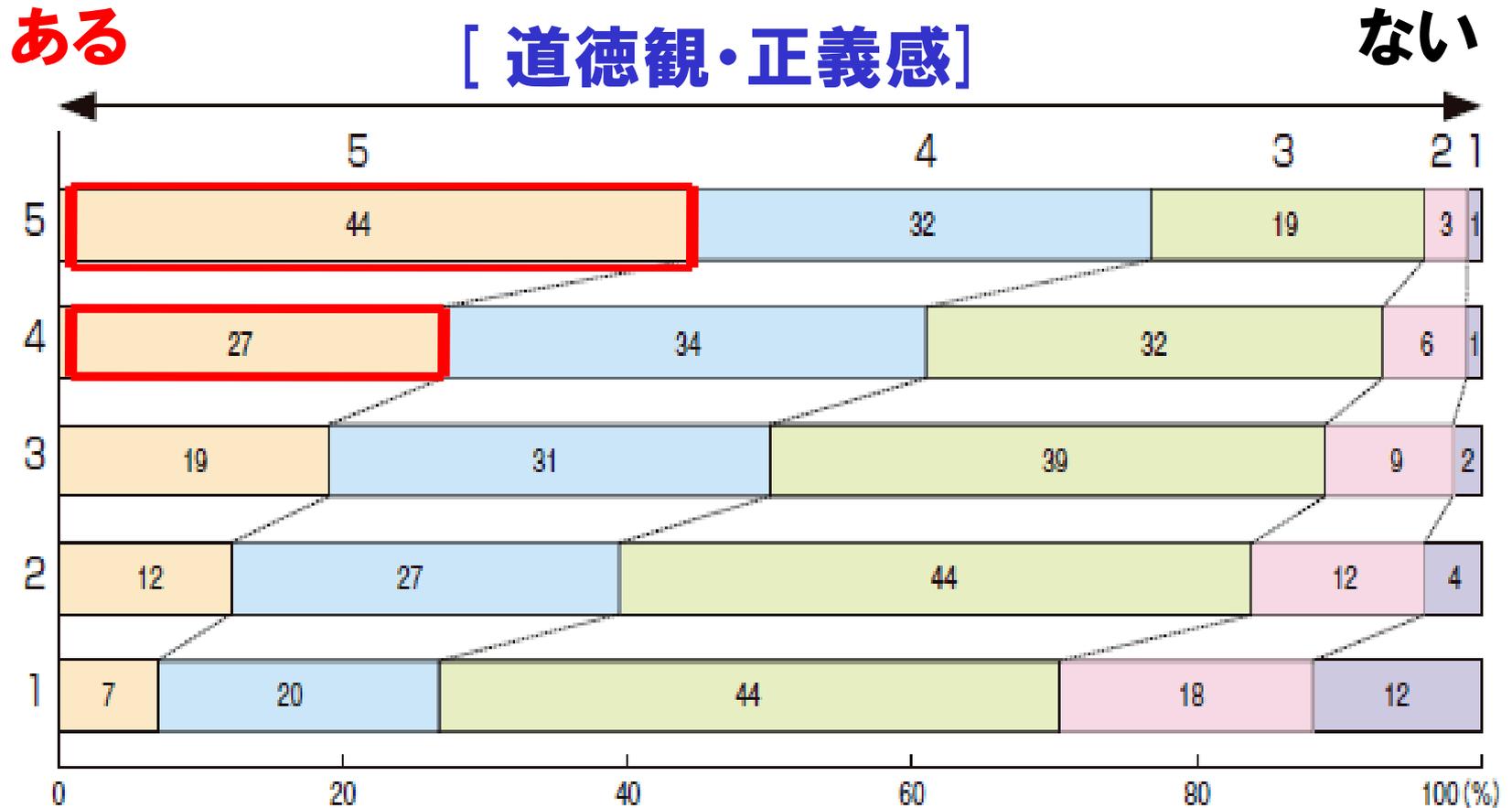
A : ⇒ 3000万円の建物の場合、Bの方に+350万円

緑の量（庭木、生垣等の割合 [%] ） → 限界支払い意思額 25万円 / %

緑が多いと不動産価値が上がる

< 「景観形成の経済的価値分析に対する検討報告書（H19年6月 国土交通省 調査）」より >

【 自然体験 と 心の成長 】



(注) 「自然体験」と「道徳観・正義感」に関する質問への回答を得点化し、各々の子どもの得点を5段階に区分した上で、両得点をクロス集計した。
 資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構「『青少年の自然体験活動等に関する実態調査』報告書平成17年度調査」より作成

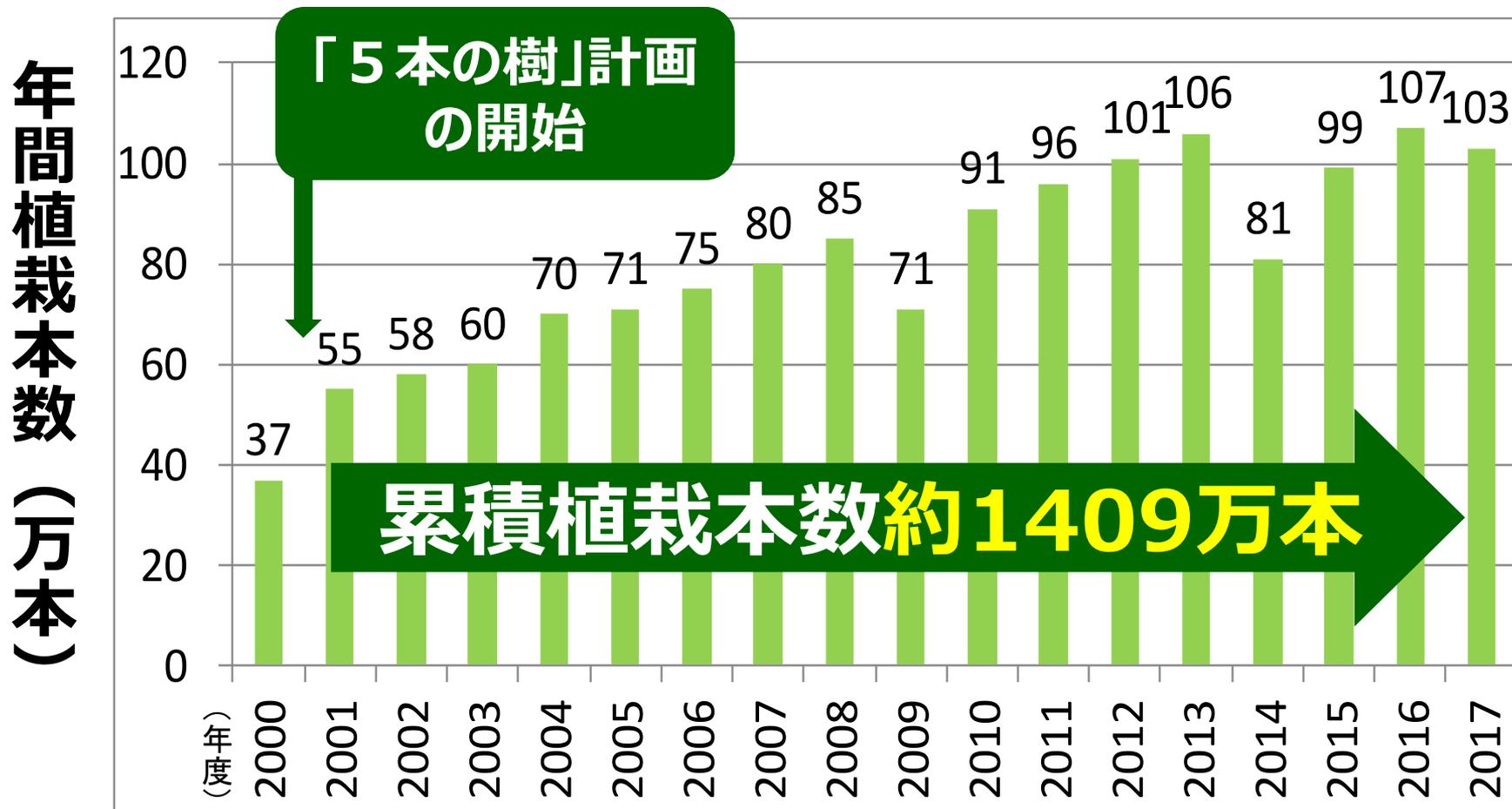
植木・造園のマーケットで 「雑木」の評価が上がり始めました



全国で植栽累積 約1千400万本に

【 「5本の樹」計画開始以降の年間植栽本数*推移 】

(* 「5本の樹」樹種を中心とした全ての植栽本数)



「経年美化」…地域の資産でもある



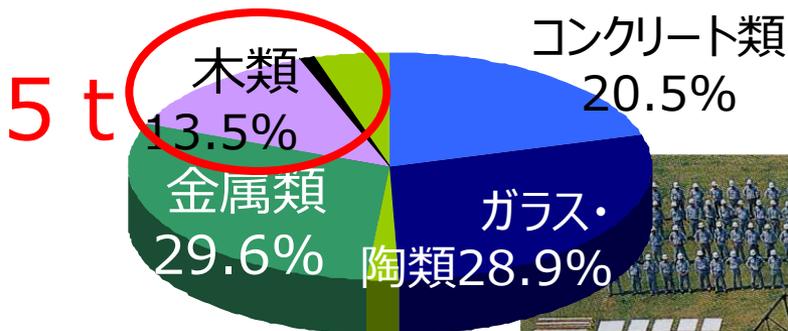
2. 保全プロセスを通じて サプライヤーを理解

… 協創による連携強化

木材調達使用量

競争力の源泉は優良な原材料にある

弊社住宅の資源使用量



総量 約42t

(約150m²の標準的な当社軽量鉄骨造住宅、建物のみ)



積水ハウス一棟の住宅に使われる部材は平均約6万点にも及ぶ

参考：シャーウッド
(木質系)



取引メーカー約3,000社の協力を得て
1棟あたり約5万点以上の部材で構成されています。

サステナブル・ビジョン（2005年）

「持続可能性を経営の基軸に据える」…SDGsと同じ方向性

「4つの価値と13の指針」とSDGs（事業を通じた直接的・間接的な寄与項目）



積水ハウスの「木材調達ガイドライン」

	積水ハウスの「木材調達ガイドライン」10の指針	対応するSDGsの目標とターゲット例
1	違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材	 
2	貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材	
3	地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採がおこなわれている地域以外から産出された木材	
4	絶滅が危惧されている樹種以外の木材	
5	生産・加工・輸送工程におけるCO2排出削減に配慮した木材	
6	森林伐採に関する地域住民との対立や不当な労働慣行を排除し、地域社会の安定に寄与する木材	 
7	森林の回復速度を超えない計画的な伐採がおこなわれている地域から産出された木材	 
8	計画的な森林経営に取り組み生態系保全に寄与する国産木材	
9	森林生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材	
10	資源循環に貢献する木質建材	

評価の一例：（絶滅危惧種）

調達指針④ 絶滅が危惧されている樹種以外の木材

得点	IUCN Red Databook 1994 Categories & Criteria (Ver2.3)	IUCN Red Databook Category(日本版)	樹種 (抜粋)
5点	LR/LC Low Risk/ Least Concern	カテゴリー外	ウエスタンレッドシダー、 ダグラスファーなど
4点	LR/CD&NT Low Risk/ Conservation Dependent, Near Threat	準絶滅危惧	ヒノキ、スギ、センペル セコイアなど
3点	VU Vulnerable	絶滅危惧やや高い	セブター、チーク、ウリン
2点	EN Endangered	絶滅危惧高い	ホワイトメランチなど
1点	CR Critically Endangered	絶滅危惧非常に高い	レッドラワン、イエローラ ワン、カポールなど

※ 認証材であれば+2点
(= 認証制度は加点要素)

「認証」に留まらず、木材を総合評価し改善



⋮

得点	違法伐採の可能性が高いと考えられる木材のその国の木材総輸出量に占める割合	地域
5点	10%未満	フィンランド、ニュージーランドなど
4点	10%以上	ラトビア、中国、ベトナム、日本など
3点	30%以上	ロシア欧州部、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、ラオスなど
2点	50%以上	ロシア極東、エストニア、カメルーン、赤道ギニア、ガーナ、など
1点	70%以上	ガボン、リベリア、インドネシア、カンボジア、ブラジル・アマゾン、など

+

得点	IUCN Red Databook 1994 Categories & Criteria (Ver2.3)	IUCN Red Databook Category(日本版)	樹種(抜粋)
5点	LR/LC Low Risk/Least Concern	カテゴリ外	ウエスタンレッドシダー、ダグラスファーなど
4点	LR/CD&NT Low Risk/Conservation Dependent, Near Threat	準絶滅危惧	ヒノキ、スギ、センバシ、コイアなど
3点	VU Vulnerable	絶滅危惧や高い	セブター、チーク、ウリン
2点	EN Endangered	絶滅危惧高い	ホワイトメランチなど
1点	CR Critically Endangered	絶滅危惧非常に高い	レッドラワン、イエローラワン、カポールなど

⋮

10の指針ごとに分析し、合計して、木材を評価

合計点(最大43点)	調達ランク
34点以上	S
26点以上、34点未満	A
17点以上、26点未満	B
調達指針①④が評価できない、もしくは17点未満	C

→ 可視化し、マネジメント

ガイドライン 運用の成果

調達ランク

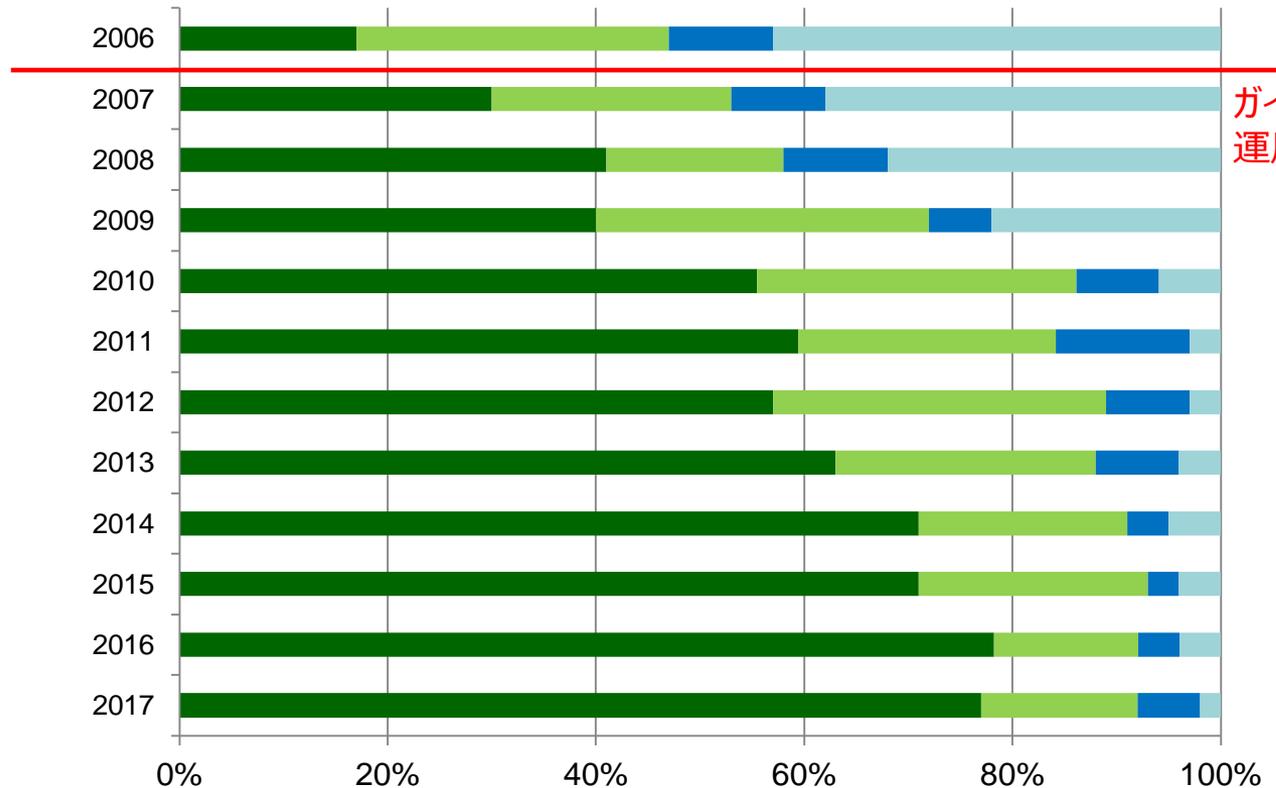
各調達指針の合計点で評価対象の木材調達レベルを高いものから順にS、A、B、Cの四つに分類。10の指針の中で特に重視している①と④に関しては、ボーダーラインを設定。

合計点(最大43点)	調達ランク
34点以上	S
26点以上、34点未満	A
17点以上、26点未満	B
17点未満	C



持続可能性の高い木材 ←

→ 持続可能性の低い木材



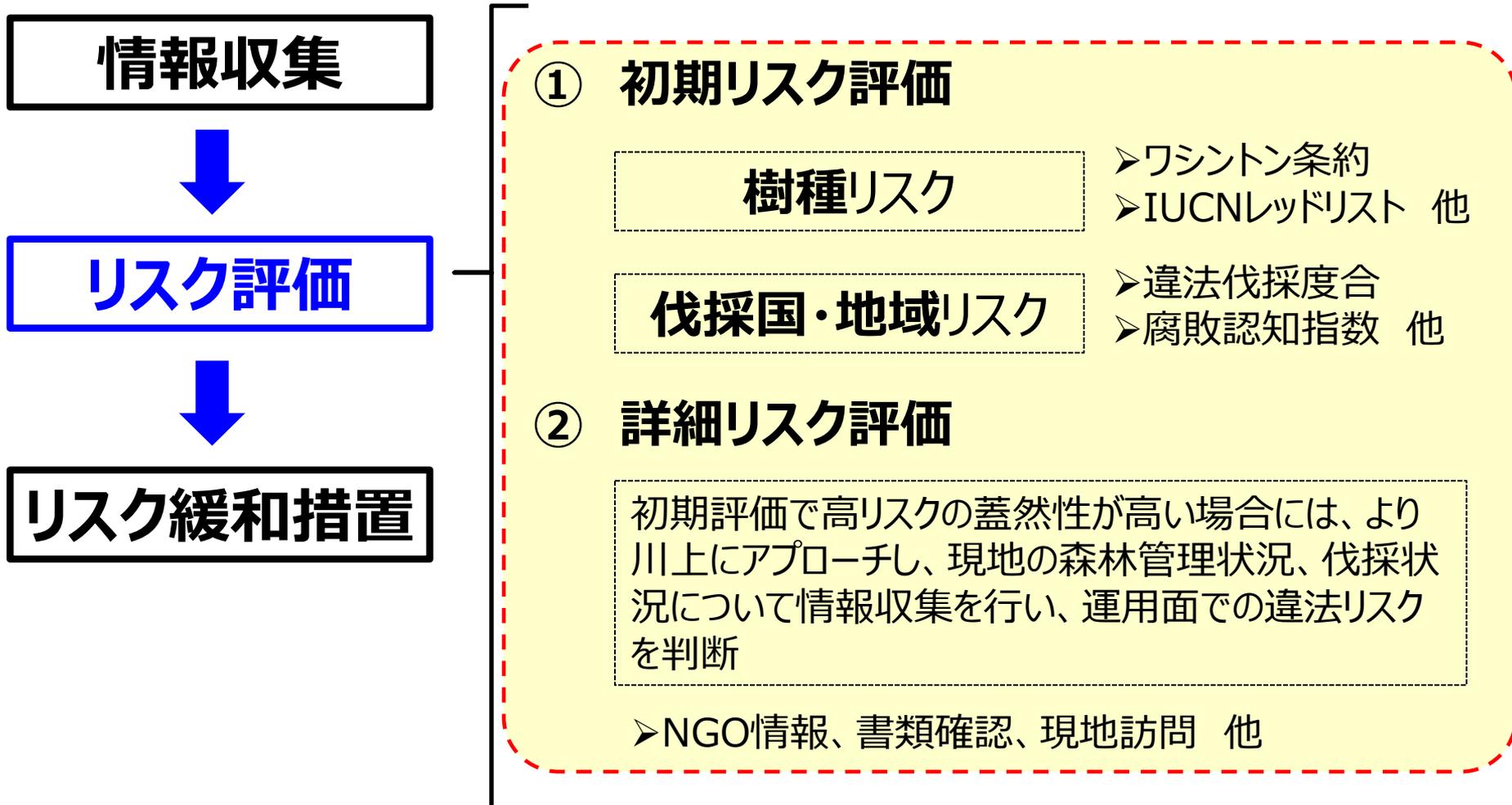
ガイドライン
運用開始

■ Sランク ■ Aランク ■ Bランク ■ Cランク

(注) Cランクの場合も、最低限の合法性はクリアしています。

ガイドライン＝デュー・ディリジェンス* (DD)

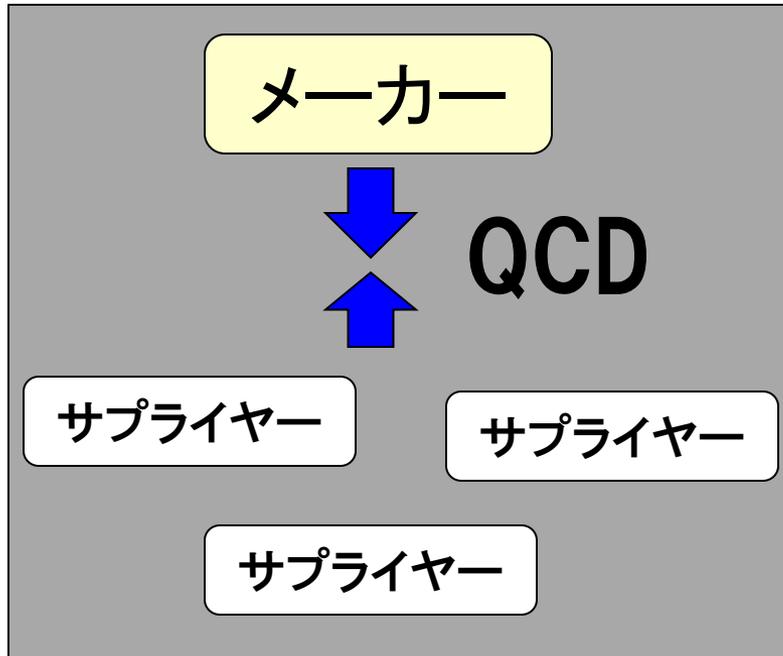
* 「相当な注意義務」と訳され、企業や物件等の買収の際に、その資産価値や想定される収益力、リスクを詳細に調査・分析し、自らが確信できる程度の注意を払うというニュアンスの言葉



Special Thanks to FoE Japan

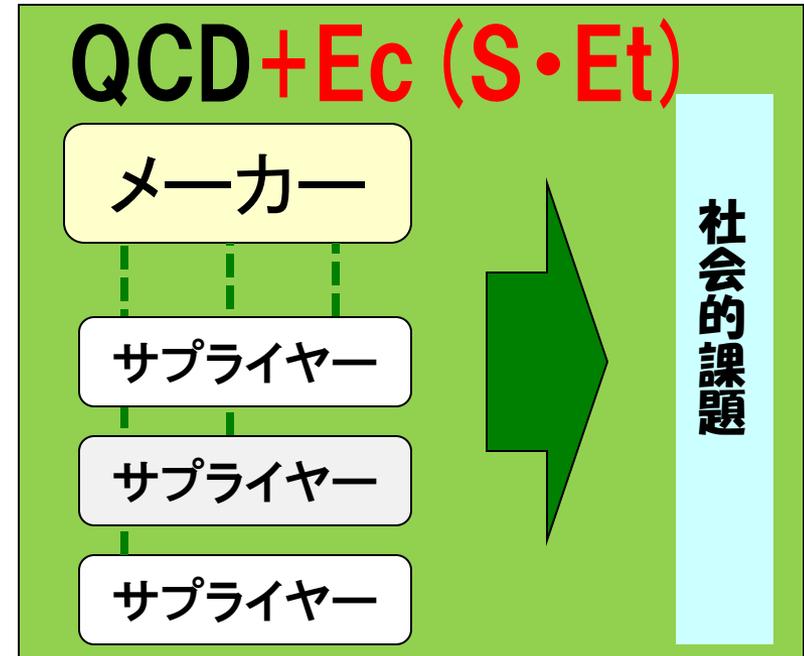
サプライヤーとの関係…「競争」から「協創」へ

折衝・対立 軸から



Quality (品質)
Cost (価格)
Delivery (納期)

コンサル的役割へ



Ecology (環境)
<Social (社会)>
<Ethical (倫理)>

国産材販売のコミュニケーション戦略



- … 国が2013年に開始した「木材利用ポイント」（既に制度は終了済み）に沿って、国内の産地で大切に手間暇かけて育てられた各地の銘木（秋田スギ、吉野スギ、美作ヒノキ等）を利用した住宅を「**国産プレミアムモデル**（柱も梁も国産材の商品）」として商品化。
材に銘木の焼印を刻印したり、建築期間中に仮囲い銘木利用である旨のパネルやノリを立ててお客様の地域への愛着に働きかけたりといった持続可能な木材のプレミアム感を高めるためのコミュニケーション提案方法も評価頂いて、第一回の「ウッドデザイン賞」で部門別の最高位に該当する「**林野庁長官賞**」の取得をさせて頂きました。
大企業の責任は、単にフラグシップモデルを作るだけでなく、ボリューム・規模を拡大して市場への道をつけることだと考えておりますが、「木材利用ポイント」の制度終了後も、国産材の銘木を柱に利用した木質系住宅は引き続き、月に5,60棟ペースの販売にまで成長し、**累積も2800棟を超える商品へと飛躍**しました。

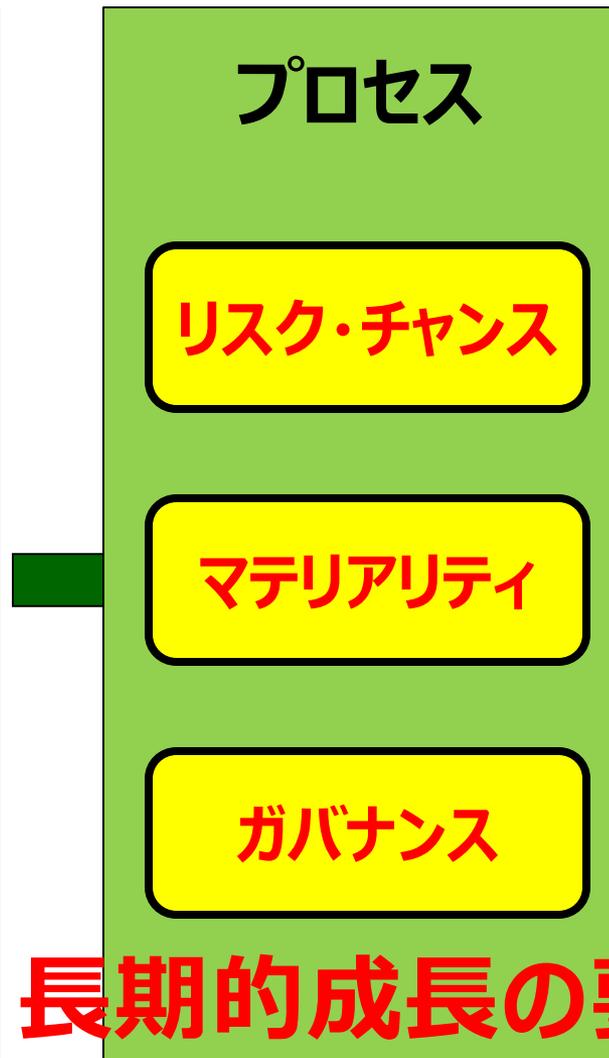
3. 長期的成長のための 持続可能性経営支援の ツールとしてのESG投資 … 戦略に基づく情報開示

投資家は企業の何に注目しているのか

これを投入・活用して



この事業過程を経て



こんな成果が出る



長期的成長の要素

➤ GPIF が選定した 4指数 全てに採用

- 総合型指数：FTSE Blossom Japan Index、
- 総合型指数：MSCI ジャパンESGセレクトリーダーズ指標、
- テーマ指数(S)：MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)
- テーマ指数(E)：S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

➤「DJSI World」構成銘柄 に採用

➤「DJSI Asia Pasific」構成銘柄 に採用

➤「Robeco SAM」による「Goldクラス」に選定

ご清聴ありがとうございました



本社 梅田スカイビル
と希望の壁

積水ハウス(株) 環境推進部 佐々木 正顕

m-sasaki@ga.sekisuihouse.co.jp